

令和元年度執行事務事業

| 施策名 | 基本事業 | 番号 | 事務事業名 |
|----------|---------------|----|-------------------------|
| 公共交通網の整備 | 公共交通ネットワークの充実 | 1 | 両毛線整備促進期成同盟会参画事業 |
| | | 2 | ユニバーサルデザインタクシー導入支援事業 |
| | | 3 | 有償バスデマンド実証運行導入事業 |
| | | 4 | 東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会参画事業 |
| | | 5 | 東武鉄道整備促進期成同盟会参画事業 |

| | | | | | | | |
|-------|------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 事務事業名 | 両毛線整備促進期成同盟会参画事業 | 担当部 | 都市建設部 | 担当課 | 都市計画課 | 担当係 | 交通政策係 |
|-------|------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

| | |
|--|---|
| ①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？ | 昭和33年6月1日に、JR両毛線沿線の市町及び商工会議所・商工会により、両毛線の複線化及び施設整備等の促進を図ることを目的に両毛線整備促進期成同盟会が組織された。 |
| ②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？ | 超高齢社会を迎えて、公共交通に期待される役割は大きくなってきている。また、本市への移住・定住を図るためにも、広域的な移動が可能となる鉄道の整備は重要である。 |
| ③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？ | 平成28年12月定例会において、両毛線の快速電車運行の要望についての一般質問があった。 |

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

| 前年度の評価結果 | 評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組 |
|----------|-------------------------|
| 現状維持 | |
| | |

2. 事務事業の事後評価【Check】

| | | | | |
|-----------------|--|----------------------|--------|---|
| 目的 妥当性 評価 | ①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？ | 結びついている | 理由・改善案 | JR両毛線の利用者の利便性の向上を目的とする事業であり、公共交通ネットワークの充実に結びついている。 |
| | ②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？ | 市が行わなければならない | 理由・改善案 | 市民の広域的な通勤・通学を担う鉄道の利便性向上は市として取り組まなければならない。 |
| | ③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？ | 妥当である | 理由・改善案 | JR東日本高崎支社に対しJR両毛線の駅等の施設整備及びダイヤなどの利便性の向上に関する要望を行うため、対象と意図は合っている。 |
| 有効性 評価 | ④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？ | 成果向上余地がある程度ある | 理由・改善案 | JR両毛線の駅等の施設整備及びダイヤなどの利便性の向上に関する要望活動を実施しているが、要望の結果、継続案件や検討事項となる場合もあるため、成果向上の余地がある。要望活動については、市単独で行うよりも、同盟会に加入し、他市町と連携し、要望活動を実施する方が効果的である。 |
| | ⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？ | 類似事務事業はあるが、統合・連携できない | 理由・改善案 | 対象が異なるため、統合・連携はできない。 |
| | *類似事務事業があれば、名称を記入 | | | |
| 効率性 評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？ | 削減の余地はない | 理由・改善案 | 事業費は負担金のみであり、また、この事業に係る業務所要時間は少ないため、事業費及び人件費の削減の余地はない。 |
| 公平性 評価 | ⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？ | 受益者負担を求めない | 理由・改善案 | JR両毛線の利用者の利便性の向上を図ることが目的であるため、受益者は不特定多数の市民であり、受益者は特定されず、負担を求めない。 |
| 総合 評価 | ⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 要望事項がなくなった場合又は同盟会による活動が不要となった場合は、廃止することができる。 | | | |

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

| (1) 今後の事務事業の方向性 | (2) 改革・改善による期待効果 | (3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-----------------------------------|----|-----|--|--|--|--|----|----|----|----|----|--|--|--|----|--|---|---|----|--|---|---|--|
| 現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) | <p>廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> | | | コスト | | | | | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 | | | | 維持 | | ○ | × | 低下 | | × | × | |
| | | コスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 削減 | 維持 | 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果 | 向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持 | | ○ | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 低下 | | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|-------|--------------|-------------------------|----------|---|-------------|---|-----------------|-------|--------|------------|-------|
| 事務事業名 | | ユニバーサルデザインタクシー導入支援事業 | | | | | 評価区分(事前評価・事後評価) | | | 事後評価(A・B表) | |
| 政策体系 | 基本目標 | 5 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり | | | | | 担当組織 | 担当部 | 市民生活部 | 担当課 | 市民生活課 |
| | 政策 | 3 都市機能の充実したまちづくり | | | | | 担当係 | 公共交通係 | 担当課長名 | 藤掛 誠 | |
| | 施策 | 2 公共交通網の整備 | | | | | 新規事業・継続事業 | | 新規事業 | | |
| | 基本事業 | 1 公共交通ネットワークの充実 | | | | | 実施計画事業・一般事業 | | 実施計画事業 | | |
| 予算科目 | 短縮コード | 会計 | 款 | 項 | 目 | 予算細事業名 | | | | | |
| | 2578 | 一般 | 2 | 1 | 23 | ユニバーサルデザインタクシー導入支援事業 | | | | | |
| 事業計画 | 期間限定複数年度 | 事業期間 | R元年度～2年度 | | 根拠法令 条例等 | 佐野市バリアフリー基本構想、佐野市ユニバーサルデザインタクシー導入支援事業費補助金交付要綱 | | | | | |
| | 事業区分 | | 実施方法 | | 直営 | | 事業分類 | | 支援事業 | | |
| | リーディングプロジェクト | | 該当なし | | 市長市政公約 | | 該当なし | | 該当なし | | |
| | 市単独事業・国県補助事業 | | 市単独事業 | | 任意の事業 | | 任意の事業 | | 任意の事業 | | |

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

| | | | | | | | |
|---|--|--|-----------|-----------|----------|----------|----------|
| 事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方) | | 令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容) | | | | | |
| 民間事業者が行うユニバーサルデザインタクシーの導入に対し補助金を交付し導入支援を行う。 補助金の額は、補助対象経費の額の6分の1の額とし、県補助金の交付決定を受けた額を限度とする。 | | 民間事業者が行ったユニバーサルデザインタクシーの導入に対し補助金を交付した。 令和元年度導入実績 ・佐野合同自動車株式会社 導入台数1台 ・佐野交通株式会社 導入台数1台 | | | | | |
| 活動指標 | | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(見込) | R3年度(見込) |
| 導入支援を行ったユニバーサルデザインタクシーの台数 | | 台 | | | 2 | 2 | |

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

| | | | | | | | |
|-------------------|----------|----|-----------|-----------|----------|----------|----------|
| ① 市民 ② タクシー事業者 | 対象指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(見込) | R3年度(見込) |
| | 市人口 | 人 | 120,018 | 119,348 | 118,450 | 117,706 | |
| | タクシー事業者数 | 社 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

| | | | | | | | |
|---|---------------------|----|-----------|-----------|----------|----------|----------|
| ① 公共交通が利用者ニーズに応じ、充実したものになっている。 ② ユニバーサルデザインタクシーが導入される。 | 成果指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(目標) | R3年度(目標) |
| | 公共交通機関が便利であると思う人の割合 | % | 42.2 | 43.3 | 42.3 | 56.0 | 56.5 |
| | ユニバーサルデザインタクシー導入数 | 台 | | | 2 | 2 | |

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

| | | | | | | | |
|-------------------|---------------------|----|-----------|-----------|----------|----------|----------|
| 市民が公共交通を快適に利用できる。 | 上位成果指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(目標) | R3年度(目標) |
| | 公共交通機関が便利であると思う人の割合 | % | 42.2 | 43.3 | 42.3 | 56.0 | 56.5 |

(2) 総事業費の推移・内訳

| | | | | | | | | | | | | |
|----------------|----------|----|-----------|-----|-----------|-----|----------|-----|----------|-----|----------|-----|
| 事業費 投入量 | 財源内訳 | 単位 | H29年度(実績) | | H30年度(実績) | | R1年度(実績) | | R2年度(目標) | | R3年度(目標) | |
| | 国庫支出金 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | 県支出金 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | 地方債 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | その他 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | 一般財源 | 千円 | | | | | 280 | | 280 | | | |
| | 事業費計(A) | 千円 | | 0 | 0 | 280 | | 280 | | | | 0 |
| | 事業費の内訳 | 千円 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 |
| | | | | | | | 補助金 | 280 | 補助金 | 280 | | |
| | 正規職員従事人数 | 人 | | | | | 1 | | 1 | | | |
| のべ業務時間 | 時間 | | | | | 50 | | 50 | | | | |
| 人件費計(B) | 千円 | | 0 | 0 | 191 | | 191 | | | | 0 | |
| トータルコスト(A)+(B) | 千円 | | 0 | 0 | 471 | | 471 | | | | 0 | |

| | | | | | | | |
|-------|----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 事務事業名 | ユニバーサルデザインタクシー導入支援事業 | 担当部 | 市民生活部 | 担当課 | 市民生活課 | 担当係 | 公共交通係 |
|-------|----------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

| | |
|--|--|
| ①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？ | 令和3年開催の東京オリンピック・パラリンピックや令和4年に栃木県で開催される国体・全国障害者スポーツ大会を控え、公共交通であるタクシーのユニバーサルデザイン化が必要であるため。また、平成27年度に策定した佐野市バリアフリー基本構想の公共交通事業の整備方針ではバリアフリー対応型車両の導入を促進するとしている。 |
| ②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？ | 国、県においては、ユニバーサルデザインタクシー導入を推進しており、既に補助制度が整備されている。平成29年度に県の補助要領が制定され、県内の各市町においても、予算化されている。 |
| ③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？ | 平成29年度に一般社団法人栃木県タクシー協議会より、ユニバーサルデザインタクシー導入にあたっての補助の要望書が提出された。また、佐野地区タクシー協議会からも補助を求められていた。 |

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

| 前年度の評価結果 | 評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組 |
|----------|-------------------------|
| | 新規事務事業により対象外 |

2. 事務事業の事後評価【Check】

| | | | |
|-----------------|--|----------------|---|
| 目的 妥当性 評価 | ①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？ | 結びついている | 理由・改善案 本事業は、ユニバーサルデザインタクシー導入の支援であり、施策の目的である「誰もが円滑に移動できる公共交通ネットワークを形成します。」に大きく貢献するものであり、政策体系に結びつくものである。 |
| | ②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？ | 市が行わなければならない | 理由・改善案 ユニバーサルデザインタクシー導入は民間事業者が行うものであり、市としても、佐野市バリアフリー基本構想にて導入を推奨していることから、支援を行う。 |
| | ③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？ | 妥当である | 理由・改善案 施策の目的は、「誰もが円滑に移動できる公共交通ネットワークを形成します。」であることから、対象を市民とし、意図を公共交通が利用者ニーズに応じ、充実したものになっているとした。また、タクシー業者に対する補助事業であるため、対象をタクシー業者、意図をユニバーサルデザインタクシー導入とした。 |
| 有効性 評価 | ④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？ | 成果向上余地がない | 理由・改善案 |
| | ⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？ | 類似事務事業はない | 理由・改善案 類似事務事業名 |
| | *類似事務事業があれば、名称を記入 | | |
| 効率性 評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？ | 削減の余地はない | 理由・改善案 事業費は補助金のみであるため、これ以上の削減の余地はない。 |
| 公平性 評価 | ⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？ | 現在の受益者負担は適正である | 理由・改善案 タクシー事業者の負担もあることから適正である。 |
| 総合 評価 | ⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) | 令和2年度終了予定 | |

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

| (1) 今後の事務事業の方向性 | (2) 改革・改善による期待効果 | (3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-----------------------------------|----|-----|--|--|--|--|----|----|----|----|----|--|--|--|----|--|---|---|----|--|---|---|--|
| 現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) | <p>廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> | | | コスト | | | | | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 | | | | 維持 | | ○ | × | 低下 | | × | × | |
| | | コスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 削減 | 維持 | 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果 | 向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持 | | ○ | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 低下 | | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 事務事業名 | | 東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会参画事業 | | | | | 評価区分(事前評価・事後評価) | | 事後評価(A・B表) | | |
|-------|---------|-------------------------|--------|---|----|-------------------------|-----------------------|--------------|--------------|-------|-------|
| 政策体系 | 基本目標 | 5 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり | | | | | 担当組織 | 担当部 | 都市建設部 | 担当課 | 都市計画課 |
| | 政策 | 3 都市機能の充実したまちづくり | | | | | | 担当係 | 交通政策係 | 担当課長名 | 岡部悦郎 |
| | 施策 | 2 公共交通網の整備 | | | | | | 新規事業・継続事業 | | 継続事業 | |
| | 基本事業 | 1 公共交通ネットワークの充実 | | | | | | 実施計画事業・一般事業 | | 一般事業 | |
| 予算科目 | 短縮コード | 会計 | 款 | 項 | 目 | 予算細事業名 | | | | | |
| | 1360 | 一般 | 2 | 1 | 23 | 東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会参画事業 | | | | | |
| 事業計画 | 単年度繰り返し | 事業期間 | H17年度～ | | | 根拠法令 条例等 | 東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会規約 | | | | |
| | | | | | | | 事業区分 | | 市単独事業・国県補助事業 | | 市単独事業 |
| | | | | | | | | 任意的事業・義務的事業 | | 任意的事業 | |
| | | | | | | | | 実施方法 | | 直営 | |
| | | | | | | | | 事業分類 | | 参画事業 | |
| | | | | | | | | リーディングプロジェクト | | 該当なし | |
| | | | | | | | | 市長市政公約 | | 該当なし | |

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

| | | | | | | | |
|--|--|----|-----------|-----------|----------|----------|----------|
| 事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方) | 令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容) | | | | | | |
| 東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会に会員として負担金を支出している。また、JR東日本大宮支社に対する同盟会の要望活動に参加し、東北新幹線の小山駅停車増便の促進等に関する要望を行っている。 | 東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会の会議への出席、負担金の支出を行った。 (東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会の活動) 年1回の要望活動及び年2回の会議開催 ※令和元年度の要望活動は令和2年3月12日に予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事務局の判断により中止となった。 | | | | | | |
| ※東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会とは、小山駅に接続するJR宇都宮線沿線、JR両毛線沿線及びJR水戸線沿線の市及び商工会議所・商工会と連携し、JR東日本大宮支社に対し東北新幹線の小山駅停車増便の促進等に関する要望を行う団体である。 | 活動指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(見込) | R3年度(見込) |
| | 会議・要望活動回数 | 回 | 3 | 3 | 2 | 3 | 3 |

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

| | | | | | | | |
|-----------|------|----|-----------|-----------|----------|----------|----------|
| JR東日本大宮支社 | 対象指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(見込) | R3年度(見込) |
| | 要望先 | 箇所 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

| | | | | | | | |
|---------------------------------------|--------|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 東北新幹線の小山駅停車増便の促進等に関する要望を取り入れて改善してもらう。 | 成果指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(目標) | R3年度(目標) |
| | 要望件数 | 件 | 5 | 6 | 0 | 5 | 5 |
| | 鉄道利用者数 | 人 | 4,223,415 | 4,208,450 | 4,033,686 | 4,202,500 | 4,203,000 |

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

| | | | | | | | |
|----------------|---------------------|----|-----------|-----------|----------|----------|----------|
| 便利に公共交通を利用できる。 | 上位成果指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(目標) | R3年度(目標) |
| | 公共交通機関が便利であると思う人の割合 | % | 42.2 | 43.3 | 42.3 | 56.0 | 56.5 |

(2) 総事業費の推移・内訳

| | | | | | | | | | | | | |
|----------------|----------|----|-----------|-----|-----------|-----|----------|-----|----------|-----|----------|-----|
| 事業費 投入量 | 財源内訳 | 単位 | H29年度(実績) | | H30年度(実績) | | R1年度(実績) | | R2年度(目標) | | R3年度(目標) | |
| | 国庫支出金 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | 県支出金 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | 地方債 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | その他 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | 一般財源 | 千円 | | 10 | 10 | | 8 | | 8 | | | 8 |
| | 事業費計(A) | 千円 | | 10 | 10 | | 8 | | 8 | | | 8 |
| | 事業費の内訳 | 千円 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 |
| | | | 負担金 | 10 | 負担金 | 10 | 負担金 | 8 | 負担金 | 8 | 負担金 | 8 |
| | 正規職員従事人数 | 人 | | 1 | 1 | | 1 | | 1 | | | 1 |
| のべ業務時間 | 時間 | | 10 | 10 | | 10 | | 10 | | | 10 | |
| 人件費計(B) | 千円 | | 38 | 38 | | 38 | | 38 | | | 38 | |
| トータルコスト(A)+(B) | 千円 | | 48 | 48 | | 46 | | 46 | | | 46 | |

| | | | | | | | |
|-------|-------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 事務事業名 | 東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会参画事業 | 担当部 | 都市建設部 | 担当課 | 都市計画課 | 担当係 | 交通政策係 |
|-------|-------------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

| | |
|--|--|
| ①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？ | 平成17年8月18日に、小山駅に接続するJR宇都宮線沿線、JR両毛線沿線及びJR水戸線沿線の市及び商工会議所・商工会により、東北新幹線の小山駅停車増便を促進することを目的に東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会が組織された。 |
| ②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？ | 超高齢社会を迎えて、公共交通に期待される役割は大きくなってきている。また、本市への移住・定住を図るためにも、広域的な移動が可能となる鉄道の整備は重要である。 |
| ③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？ | なし |

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

| 前年度の評価結果 | 評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組 |
|----------|-------------------------|
| 現状維持 | |
| | |

2. 事務事業の事後評価【Check】

| | | | | |
|-----------------|--|----------------------|--------|---|
| 目的 妥当性 評価 | ①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？ | 結びついている | 理由・改善案 | 東北新幹線の小山駅利用者の利便性の向上を目的とする事業であり、公共交通ネットワークの充実に結びついている。 |
| | ②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？ | 市が行わなければならない | 理由・改善案 | 市民の広域的な通勤・通学を担う鉄道の利便性向上は市として取り組まなければならない。 |
| | ③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？ | 妥当である | 理由・改善案 | JR東日本大宮支社に対し東北新幹線の小山駅停車増便の促進等に関する要望を行うため、対象と意図は合っている。 |
| 有効性 評価 | ④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？ | 成果向上余地がある程度ある | 理由・改善案 | 東北新幹線の小山駅停車増便の促進等に関する要望活動を実施しているが、要望の結果、継続案件や検討事項となる場合もあるため、成果向上の余地がある。要望活動については、市単独で行うよりも、同盟会に加入し、他市町と連携し、要望活動を実施する方が効果的である。 |
| | ⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？ | 類似事務事業はあるが、統合・連携できない | 理由・改善案 | 類似事務事業名 両毛線整備促進期成同盟会参画事業、東武鉄道整備促進期成同盟会参画事業 対象が異なるため、統合・連携はできない。 |
| | *類似事務事業があれば、名称を記入 | | | |
| 効率性 評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？ | 削減の余地はない | 理由・改善案 | 事業費は負担金のみであり、また、この事業に係る業務所要時間は少ないため、事業費及び人件費の削減の余地はない。 |
| 公平性 評価 | ⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？ | 受益者負担を求めない | 理由・改善案 | 東北新幹線の小山駅利用者の利便性の向上を図ることが目的であるため、受益者は不特定多数の市民であり、受益者は特定されず、負担を求めない。 |
| 総合 評価 | ⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 要望事項がなくなった場合又は同盟会による活動が不要となった場合は、廃止することができる。 | | | |

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

| (1) 今後の事務事業の方向性 | (2) 改革・改善による期待効果 | (3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-----------------------------------|----|-----|--|--|--|--|----|----|----|----|----|--|--|--|----|--|---|---|----|--|---|---|--|
| 現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) | <p>廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> | | | コスト | | | | | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 | | | | 維持 | | ○ | × | 低下 | | × | × | |
| | | コスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 削減 | 維持 | 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果 | 向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持 | | ○ | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 低下 | | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 事務事業名 | | 東武鉄道整備促進期成同盟会参画事業 | | | | | 評価区分(事前評価・事後評価) | | 事後評価(A・B表) | | |
|-------|---------|-------------------------|--------------|---|--------------|-------------------|-----------------|-------|-----------------|------|-------|
| 政策体系 | 基本目標 | 5 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり | | | | | 担当組織 | 担当部 | 都市建設部 | 担当課 | 都市計画課 |
| | 政策 | 3 都市機能の充実したまちづくり | | | | | 担当係 | 交通政策係 | 担当課長名 | 岡部悦郎 | |
| | 施策 | 2 公共交通網の整備 | | | | | 新規事業・継続事業 | | 継続事業 | | |
| | 基本事業 | 1 公共交通ネットワークの充実 | | | | | 実施計画事業・一般事業 | | 一般事業 | | |
| 予算科目 | 短縮コード | 会計 | 款 | 項 | 目 | 予算細事業名 | | | | | |
| | 1348 | 一般 | 2 | 1 | 23 | 東武鉄道整備促進期成同盟会参画事業 | | | | | |
| | 事業区分 | | 市単独事業・国県補助事業 | | 市単独事業 | | 任意的事業・義務的事業 | | 任意的事業 | | |
| 事業計画 | 単年度繰り返し | | 事業期間 | | H6年度～ | | 根拠法令 条例等 | | 東武鉄道整備促進期成同盟会規約 | | |
| | 実施方法 | | 事業分類 | | リーディングプロジェクト | | 市長市政公約 | | 該当なし | | |
| | 実施方法 | | 事業分類 | | リーディングプロジェクト | | 市長市政公約 | | 該当なし | | |

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

| ① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。) | | | | | | | | | | | |
|--|--|----|-----------|---|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方) | | | | 令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容) | | | | | | | |
| 東武鉄道整備促進期成同盟会に会員として負担金を支出している。また、東武鉄道株式会社本社に対する同盟会の要望活動に参加し、東武鉄道の複線化及び利便性の向上の促進に関する要望を行うとともに、東武鉄道の乗車啓発活動を行っている。 | | | | 東武鉄道整備促進期成同盟会の会議・要望活動への出席、負担金の支出を行った。 (東武鉄道整備促進期成同盟会の活動) 年1回の要望活動、年2回の会議開催並びに東武鉄道乗車啓発としてポスター及びポケットティッシュの作成・配布 | | | | | | | |
| ※東武鉄道整備促進期成同盟会とは、栃木県及び群馬県の東武伊勢崎線沿線、東武佐野線沿線、東武小泉線沿線及び東武桐生線沿線の市町と連携し、東武鉄道株式会社本社に対し東武鉄道の複線化及び利便性の向上の促進に関する要望を行う団体である。 | | | | | | | | | | | |
| 活動指標 | | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(見込) | R3年度(見込) | | | | |
| 会議・要望活動・啓発活動回数 | | 回 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | | | | |
| ② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?) | | | | | | | | | | | |
| 東武鉄道株式会社本社 | | | | 対象指標 | | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(見込) | R3年度(見込) |
| 要望先 | | | | 箇所 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| ③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?) | | | | | | | | | | | |
| 東武線の複線化及び利便性の向上の促進に関する要望を取り入れて改善してもらう。 | | | | 成果指標 | | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(目標) | R3年度(目標) |
| 要望件数 | | | | 件 | | | 25 | 28 | 27 | 25 | 25 |
| 鉄道利用者数 | | | | 人 | | | 4,223,415 | 4,208,450 | 4,033,686 | 4,202,500 | 4,203,000 |
| ④ 結果(どのような結果に結びつきますか?) | | | | | | | | | | | |
| 便利に公共交通を利用できる。 | | | | 上位成果指標 | | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(目標) | R3年度(目標) |
| 公共交通機関が便利であると思う人の割合 | | | | % | | | 42.2 | 43.3 | 42.3 | 56.0 | 56.5 |

(2) 総事業費の推移・内訳

| 事業費 投入量 | 財源内訳 | 単位 | H29年度(実績) | | H30年度(実績) | | R1年度(実績) | | R2年度(目標) | | R3年度(目標) | |
|----------------|---------|----|-----------|-----|-----------|-----|----------|-----|----------|-----|----------|-----|
| | 国庫支出金 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | 県支出金 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | 地方債 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | その他 | 千円 | | | | | | | | | | |
| | 一般財源 | 千円 | 24 | | 24 | | 24 | | 24 | | 24 | |
| | 事業費計(A) | 千円 | 24 | | 24 | | 24 | | 24 | | 24 | |
| | 事業費の内訳 | 千円 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 |
| | | | 負担金 | 24 | 負担金 | 24 | 負担金 | 24 | 負担金 | 24 | 負担金 | 24 |
| | | | | | | | | | | | | |
| 正規職員従事人数 | 人 | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | |
| のべ業務時間 | 時間 | 10 | | 10 | | 10 | | 10 | | 10 | | |
| 人件費計(B) | 千円 | 38 | | 38 | | 38 | | 38 | | 38 | | |
| トータルコスト(A)+(B) | 千円 | 62 | | 62 | | 62 | | 62 | | 62 | | |

| | | | | | | | |
|-------|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 事務事業名 | 東武鉄道整備促進期成同盟会参画事業 | 担当部 | 都市建設部 | 担当課 | 都市計画課 | 担当係 | 交通政策係 |
|-------|-------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

| | |
|--|---|
| ①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？ | 平成6年10月24日に、栃木県及び群馬県の東武伊勢崎線沿線、東武佐野線沿線、東武小泉線沿線及び東武桐生線沿線の市町により、東武鉄道の複線化及び利便性の向上の促進を図ることを目的に東武鉄道整備促進期成同盟会が組織された。 |
| ②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？ | 超高齢社会を迎えて、公共交通に期待される役割は大きくなってきている。また、本市への移住・定住を図るためにも、広域的な移動が可能となる鉄道の整備は重要である。 |
| ③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？ | 平成23年6月定例会において、久喜駅への東武鉄道佐野線からの直通電車運行の要望についての一般質問があった。 |

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

| 前年度の評価結果 | 評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組 |
|----------|-------------------------|
| 現状維持 | |
| | |

2. 事務事業の事後評価【Check】

| | | | | |
|-----------------|--|----------------------|--------|---|
| 目的 妥当性 評価 | ①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？ | 結びついている | 理由・改善案 | 東武鉄道の利用者の利便性の向上を目的とする事業であり、公共交通ネットワークの充実に結びついている。 |
| | ②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？ | 市が行わなければならない | 理由・改善案 | 市民の広域的な通勤・通学を担う鉄道の利便性向上は市として取り組まなければならない。 |
| | ③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？ | 妥当である | 理由・改善案 | 東武鉄道株式会社本社に対し東武鉄道の複線化及び利便性の向上の促進に関する要望を行うため、対象と意図は合っている。 |
| 有効性 評価 | ④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？ | 成果向上余地がある程度ある | 理由・改善案 | 東武鉄道の複線化及び利便性の向上の促進に関する要望活動を実施しているが、要望の結果、継続案件や検討事項となる場合もあるため、成果向上の余地がある。要望活動については、市単独で行うよりも、同盟会に加入し、他市町と連携し、要望活動を実施する方が効果的である。 |
| | ⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？ | 類似事務事業はあるが、統合・連携できない | 理由・改善案 | 類似事務事業名 両毛線整備促進期成同盟会参画事業、東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会参画事業 対象が異なるため、統合・連携はできない。 |
| | *類似事務事業があれば、名称を記入 | | | |
| 効率性 評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？ | 削減の余地はない | 理由・改善案 | 事業費は負担金のみであり、また、この事業に係る業務所要時間は少ないため、事業費及び人件費の削減の余地はない。 |
| 公平性 評価 | ⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？ | 受益者負担を求める必要がない | 理由・改善案 | 東武伊勢崎線、東武佐野線、東武小泉線及び東武桐生線の利用者の利便性の向上を図ることが目的であるため、受益者は不特定多数の市民であり、受益者は特定されず、負担を求める余地はない。 |
| 総合 評価 | ⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 要望事項がなくなった場合又は同盟会による活動が不要となった場合は、廃止することができる。 | | | |

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

| (1) 今後の事務事業の方向性 | (2) 改革・改善による期待効果 | (3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-----------------------------------|----|-----|--|--|--|--|----|----|----|----|----|--|--|--|----|--|---|---|----|--|---|---|--|
| 現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) | <p>廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> | | | コスト | | | | | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 | | | | 維持 | | ○ | × | 低下 | | × | × | |
| | | コスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 削減 | 維持 | 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果 | 向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持 | | ○ | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 低下 | | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 事務事業名 | | 有償バスデマンド実証運行導入事業 | | | | | 評価区分(事前評価・事後評価) | | 事後評価(A・B表) | | |
|-------|-------|-------------------------|------|---|-------------|------------------|-----------------|-------------|------------|------|-------|
| 政策体系 | 基本目標 | 5 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり | | | | | 担当組織 | 担当部 | 市民生活部 | 担当課 | 市民生活課 |
| | 政策 | 3 都市機能の充実したまちづくり | | | | | 担当係 | 公共交通係 | 担当課長名 | 藤掛 誠 | |
| | 施策 | 2 公共交通網の整備 | | | | | 新規事業・継続事業 | | 新規事業 | | |
| | 基本事業 | 1 公共交通ネットワークの充実 | | | | | 実施計画事業・一般事業 | | 実施計画事業 | | |
| 予算科目 | 短縮コード | 会計 | 款 | 項 | 目 | 予算細事業名 | | | | | |
| | 19085 | バス事業 | 1 | 1 | 1 | 有償バスデマンド実証運行導入事業 | | | | | |
| 事業計画 | 単年度のみ | 事業期間 | R1年度 | | 根拠法令 条例等 | 佐野市地域公共交通再編実施計画 | | | | | |
| | | | | | 事業区分 | | 任意的事業・義務的事業 | | 任意的事業 | | |
| | | | | | | | 実施方法 | | 一部委託 | | |
| | | | | | | 事業分類 | | その他市民に対する事業 | | | |
| | | | | | | リーディングプロジェクト | | 該当なし | | | |
| | | | | | | 市長市政公約 | | 2-④-1 | | | |

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

| ① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。) | | | | | | | | | |
|--|--|----|---|-----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|
| 事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方) | | | 令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容) | | | | | | |
| バス停まで歩いて行くことができない高齢者等の移動手段を確保するため、市営バス一部路線(野上線)の一部の便にデマンド運行(区域運行)を実証実験として導入する。 デマンド運行導入にあたり、車両(10人乗りワゴン車)の購入、必要なバス停の改修、時刻表の作成を行う。 | | | ・運行事業者との打合せ ・車両の取得 ・バス停の改修 ・時刻表の作成 ・地域説明会(野上地区・三好地区) ・デマンド登録申請受付 | | | | | | |
| 活動指標 | | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(見込) | R3年度(見込) | | |
| 車両の取得 | | 台 | | | 1 | | | | |
| ② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?) | | | | | | | | | |
| 市民 | | | 対象指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(見込) | R3年度(見込) |
| 市人口 | | | 市人口 | 人 | 120,018 | 119,348 | 118,450 | 117,706 | |
| ③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?) | | | | | | | | | |
| 市民の移動手段を確保する。 | | | 成果指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(目標) | R3年度(目標) |
| 公共交通サービスの人口カバー率(公共交通サービス圏域人口/総人口) | | | 公共交通サービスの人口カバー率(公共交通サービス圏域人口/総人口) | % | 77.0 | 77.9 | 77.9 | 79.1 | 81.5 |
| ④ 結果(どのような結果に結びつきますか?) | | | | | | | | | |
| ①市民が公共交通を快適に利用できる。 ②公共交通が利用者ニーズに応じ、充実したものになっている。 | | | 上位成果指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(目標) | R3年度(目標) |
| 公共交通サービスの人口カバー率(公共交通サービス圏域人口/総人口) | | | 公共交通サービスの人口カバー率(公共交通サービス圏域人口/総人口) | % | 77.0 | 77.9 | 77.9 | 79.1 | 81.5 |
| 公共交通機関が便利であると思う人の割合 | | | 公共交通機関が便利であると思う人の割合 | % | 42.2 | 43.3 | 42.3 | 56.0 | 56.5 |

(2) 総事業費の推移・内訳

| 事業費 投入量 | 財源内訳 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R1年度(実績) | R2年度(目標) | R3年度(目標) | | | |
|----------------|---------|----|-----------|-----------|----------|----------|----------|-----|----|-----|
| | 国庫支出金 | 千円 | | | | | | | | |
| | 県支出金 | 千円 | | | | | | | | |
| | 地方債 | 千円 | | | | | | | | |
| | その他一般会計 | 千円 | | | 3,147 | | | | | |
| | その他一般財源 | 千円 | | | | | | | | |
| | 事業費計(A) | 千円 | 0 | 0 | 3,147 | 0 | 0 | | | |
| | 事業費の内訳 | 千円 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 | 項目 | 事業費 |
| | | | 需用費 | 182 | | | | | | |
| | | | 役員費 | 94 | | | | | | |
| 委託料 | | | 79 | | | | | | | |
| 備品購入費 | | | 2,731 | | | | | | | |
| 公課費 | 61 | | | | | | | | | |
| 正規職員従事人数 | 人 | | | 2 | | | | | | |
| のべ業務時間 | 時間 | | | 80 | | | | | | |
| 人件費計(B) | 千円 | 0 | 0 | 305 | 0 | 0 | | | | |
| トータルコスト(A)+(B) | 千円 | 0 | 0 | 3,452 | 0 | 0 | | | | |

| | | | | | | | |
|-------|------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 事務事業名 | 有償バスデマンド実証運行導入事業 | 担当部 | 市民生活部 | 担当課 | 市民生活課 | 担当係 | 公共交通係 |
|-------|------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

| | |
|--|--|
| ①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？ | これまで本市においては、市民の移動手段確保として市営バスの路線整備を進めてきたところであるが、超高齢社会を迎え、公共交通に求められる期待も以前にも増し、高まってきているところである。こうしたなか、これまではバス停まで距離があり、バスが利用できなかった人の移動の足を確保するため、区域運行を行うデマンド交通を導入する。 |
| ②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？ | 高齢化の進展により、デマンド交通導入の機運は高まってきており、デマンド交通を導入する自治体も増加してきている。 |
| ③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？ | 議会からもデマンド交通に関する質問が出ている。 |

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

| 前年度の評価結果 | 評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組 |
|----------|-------------------------|
| | 新規事務事業により対象外 |

2. 事務事業の事後評価【Check】

| | | | | |
|-----------------|---|----------------------|--------|---|
| 目的 妥当性 評価 | ①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？ | 結びついている | 理由・改善案 | 本事業は、デマンド交通の導入であり、施策の目的である「誰もが円滑に移動できる公共交通ネットワークを形成します。」に大きく貢献するものであり、政策体系に結びつくものである。 |
| | ②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？ | 市が行わなければならない | 理由・改善案 | 市営バスの既存路線にデマンド交通を導入するため、市が行わなければならない。 |
| | ③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？ | 妥当である | 理由・改善案 | 施策の目的は、「誰もが円滑に移動できる公共交通ネットワークを形成します。」であることから、対象を市民とし、意図を市民の移動手段を確保するとした。 |
| 有効性 評価 | ④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？ | 成果向上余地がある程度ある | 理由・改善案 | 既存の路線である野上線にデマンド交通を導入したが、既存路線が無い地域にデマンド交通を導入することにより成果向上が期待できる。 |
| | ⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？ | 類似事務事業はあるが、統合・連携できない | 理由・改善案 | 類似事務事業名 高齢者タクシー券給付事業 タクシー利用者の実態は比較的市街部に多く、中山間地域においては利用料金が高額になることから、利用者は多くない。本事業は市営バス野上線を対象としており、利用者としては中山間地域の高齢者を想定している。 |
| 効率性 評価 | ⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？ | 削減の余地はない | 理由・改善案 | 事業費は車両の取得費、バス停改修費、時刻表の作成費であるため、削減の余地はない。 |
| 公平性 評価 | ⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？ | 現在の受益者負担を見直す必要がある | 理由・改善案 | 市営バスの利用者から運賃を徴収しているが、現在の収支率を考えると運賃見直しが必要である。 |
| 総合 評価 | ⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 令和2年度より交通事業者が運行主体となる佐野市生活路線バスに移行し、野上線等の中山間地域の路線についてはデマンド交通を導入することから、令和元年度で本事業を終了する。 | | | |

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

| (1) 今後の事務事業の方向性 | (2) 改革・改善による期待効果 | (3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-----------------------------------|----|-----|--|--|----|----|----|----|----|--|--|--|----|--|--|---|----|--|---|---|--|
| 事業終了 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) | 廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> | | | コスト | | | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 | | | | 維持 | | | × | 低下 | | × | × | |
| | | | | コスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 削減 | 維持 | 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果 | 向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持 | | | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 低下 | | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |